

1月22日（月）水口中学校を訪問しました！

対談テーマ

個別最適な学びによる子どもの学ば力の向上について

学びのステップアップ調査校指定を受け、授業改善や一人一台端末の活用などで個別最適な学びに取り組む水口中学校の実践について見聞し、これまでの取組の成果と今後の子どもの学ば力の向上の方策について対談しました。



訪問した教育委員

野村 早苗 委員 塚本 晃弘 委員

水口中学校について



水口中学校は「さ」差別をしない「わ」若さあふれる「や」やる気のある「か」考える「さわやか」を教育スローガンに掲げておられます。

学びのステップアップ調査の第1回目が5月に実施され、調査の結果から生徒のつまづきを教職員で共有し、指導方法の改善に取り組まれています。第2回目の調査の様子や、一人一台端末を活用した授業の様子を見学させていただきました。

意見交換より

委員：CBT 調査の見学の中でタブレットを見るとキーボードがない生徒が見受けられました。機材は揃っていないのですか。

学校：すべての生徒のタブレットにはキーボードがついています。生徒はその都度、キーボードを使用するか選択しています。

委員：ICT 活用にあたり、教員への研修の頻度や内容を教えてください。

学校：ICT 推進員の先生が中心となり、夏季休業中に初任や新転任の先生を対象に研修を実施。内容はオクリンクの使い方や授業の組み立て方など実施しました。

市教委：教育委員会でも研修会を実施しています。

委員：ICT 推進員の先生が作られた ICT 教材は、他の先生と共有することは可能ですか。

学校：オクリンク内に教員専用や学年の生徒専用など共有できるメンバーを区別したフォルダで整理し、共有できる環境にあります。



委員：ICT を使うことで生徒がより深く学んでいける授業づくりについて現状や今後の可能性を教えてください。

学校：ICT の良さはグラフや実験など興味を持たせる上では大変有効です。また理科の課題解決授業を展開する際、挙手させるのではなく、ICT を介せば、周りに左右されず、自分の意見が表現できます。

委員：外国人生徒に対して翻訳機能など ICT を有効に活用されていますか。

学校：翻訳機能を使用している生徒はいます。外国人生徒にとって日常生活言語までは理解できても学習言語まで理解することが課題です。